

見るだけの妻

見るだけの妻女

木山捷平

土筆社版

検印
廃止

見るだけの妻 定価七百五十円

昭和四十四年三月二十日 第一刷発行

著者 木山捷平

発行人 吉倉伸

発行所 土筆社

東京都渋谷区代官山町十番地二十三号

振替口座 東京五四七六六

電話番号 東京461三六五八

印刷所 合資会社 光明社

東京都港区赤坂九ノ六ノ四十三

©木山みさを 一九六九

目次

I

見るだけの他百五十句

九

II

入院

空

今年よ さよなら

充

歳末今昔

三

大みそか あれこれ

七

私の好きな十二月

六

般若心経と私

六

名著発掘——遠藤巖編「古今事物起源」

四

私の古典——教訓多い「奥の細道」

九

旧婚旅行

一〇二

私の新婚旅行

一〇六

助かった話

一一

ころんだ話

一二七

米一斗五升

一二〇

泥棒の足跡

一二六

真珠の核

一二四

郷土の古墳

一二九

備中記

一四四

死なんでよかったのう

一四七

競争心

一五〇

柿の木にのぼる月

一五六

痛みの孤独

一六〇

病菌豚

一六二

カリン酒

一六六

交配

一七〇

変り身

一七四

自分のいびき

一七

私のタワリシチ

一八

III

二つの太宰治劇

一九

太宰の故郷

一九

初対面の太宰

二〇

文壇将棋新番付

二〇

おんな友達

二一

銀座の思い出

二二

満州での逸見

二三

IV

オホーツク海の味

二四

雨男に旅情

二五

湯瀬

二六

松葉ガニ

三三

わっぱ煮

三六

雑司ヶ谷

四二

V — 「風報」 —

同人雜誌

四七

ラジウム鉍砂

五三

松葉杖

五九

つげの木

六六

愚かなる私ごと

七三

暗闇まつり

七八

五十の手習

八三

觀察眼不足

八八

我家の庭

九三

病床記（木山みさを）

あとがき

二九七

三九

題字 井伏鱒二

見るだけの妻となりたる五月かな

昭和四十三年五月一日
東京医科歯科大学病院
六一八号室にて

旅もがなもりきりめしに萩の花

草の実のこぼるゝ秋に別れたる

飯をたく三坪の庭や秋の暮

夕月や草の実をとる裾のぬれ

京を九里小湊にふる時雨かな

昭和十八年九月二十一日
雨月会 上野公園梅川にて

とぎ水の師走の垣根行きにけり

言はうかな言ふまいかなや冬の蠅

客ありて木枯の夜を妻と寝ぬ

房州や大根ぬくひと母に似て

冬なれや関八州の干大根

木枯に向ひて行きしこともあり

生
き
の
び
て
師
走
三
日
の
句
会
か
な

木
枯
や
板
に
画
を
描
く
大
工
の
子

木
枯
の
や
み
て
今
よ
ひ
の
月
夜
か
な

昭和三十四年十二月二十八日
文壇句会（別冊文芸春秋主催）